

『中和地区 地域医療を考える会』 研修会実施報告

日 時：平成 29 年 9 月 29 日（金）19 時～21 時

場 所：大和高田市立病院 大会議室

参加者数：54 名

（土庫病院：3 名 中井記念病院：15 名 済生会御所病院：2 名 香芝生喜病院：13 名 当院：21 名）

<内容>

中和の医療を支える 6 病院が共同する研修会の第 1 回目が開催されました。この度は、吉本整形外科・外科病院からは都合により参加されませんでした。遅くからの開始時間であったにもかかわらず各施設より多数お集まりいただくことができました。



最初に、岡村院長より、中和の葛城地区の地域医療構想の対応は、来年 4 月から二次輪番体制を築く 6 病院による病病連携が要となるとの宣言があり、さらに今後の取り組みや課題についてのお話がありました。

【section1】において、座長である香芝生喜病院院長、白井典彦先生の進行のもと、『STOP Diabetes☆NARA～誰もができる糖尿病性腎症重症化予防～』をテーマとし、公立大学法人奈良県立医科大学 地域医療学講座 教授 赤井靖宏先生からのご講義がありました。わが国の透析の医療技術は世界トップレベルと賞されています。ただし、高額な医療費として国の財政を逼迫しているのも否めない状況です。ご存知のように糖尿病は自覚症状が乏しい病気です。初期での対応がいかに大切であるか、そこで血圧や体重などのコントロールなどが重要であること、腎症になれば初期であっても病態的に進行していることもあり大学病院のような専門外来の受診が勧められます。そして、地域の医療機関と連携して継続治療にあたるのが大切であることをご教授いただきました。

【section2】では、座長として、中井記念病院院長、中井謙之先生の進行のもと、『地域で求められる医療とは～これからの医療のニーズと地域医療構想～』をテーマとし、奈良県医療政策部部長、林修一郎先生よりご講義がありました。奈良県の救急医療について、県内の救急搬送患者の受け入れは、近年飛躍的に向上しています。「南和」においては南奈良総合医療センターの開院により頗る「応需率」の上昇があります。しかし、「中和」の「応需率」は目立った改善なく、奈良県で最も低い医療圏になったとのデータ照会がありました。大和高田周辺には大規模な病院がなく、受け入れ件数、応需率が比較的低い病院が多いことが原因と考えられます。これを今後どう改善するかが、この地域の課題であるといわれていました。地域包括ケアにおいて 2025 年を見据えた取り組みがなされています。しかし、2025 年以降、急速に人口が減少していく中で、それぞれの地域において健全な状態で医療が提供できるよう考えていかなければならないことをお教えいただきました。



各施設の院長をはじめ、活発な意見交換がなされ、盛大な会となりました。

作成者氏名：地域医療連携センター 巽 美澄子

